

わがまち 企業訪問 vol.12

市内の企業では、どのような製品やサービスが生産され、どのような人が働いているか。企業の思いと働く人の情熱を紹介します。



有限会社 千田清掃

エネルギーの地産地消 人と人の縁が、環境を守る

地域の役に立つため、未来に自然豊かな故郷を残すため、幅広い事業を展開しているのが、古川狐塚地区にある有限会社千田清掃です。

千田清掃は、約70年にわたり、し尿収集運搬・浄化槽設備管理などで地域の環境衛生を支えてきました。また、時代の変遷とともに限りある資源の有効活用や、暮らしの困り事を手助けする事業に取り組んでいます。

中でも「バイオディーゼル燃料(以下、BDF)」の製造供給は、環境問題に配慮した最先端エネルギーとして注目されています。

BDFは、廃食用油(使用済み植物油)を特殊なる過装置に通し、化学反応させることで生成される燃料です。化石燃料を燃やして生成する軽油に対し、二酸化炭素を排出せずにディーゼル燃料を生成できます。

きっかけは、地球温暖化や地球環境が問題視され始めた

頃、自社の作業車両の排気ガスが環境を汚しているのではないかと心を痛めたことでした。何より、未来の子どもたちに自然豊かな大崎を残したい、と思いつき、平成17年から事業に着手したそうです。

環境問題への取り組みは地域に広まり、現在では、大崎地域の学校給食センターや飲食店、食品工場、一般家庭から廃食用油を収集。千田清掃で製造されたBDFは、自社の作業車両はもちろん、市民バス、市の公用車、大崎地域の工場などで使用され、エネルギーの地産地消につながっています。



▲BDFを生成する装置。廃食用油200ℓあたり160ℓのBDFが生成できます。

化石燃料に頼ることなく、植物由来の油を使ったエネルギーは、限りある資源の再生を促し、地球温暖化防止の効果が期待できます。

また、千田清掃では、小・中学校や各イベントで、BDFを使ったバイオカーの試乗や講座を開き、環境教育の周知にも力を注いでいます。

「世のため・人のため・地球のため」行動するという信念のもと、大崎地域全体で、豊かな自然を守り、明るい未来を子どもたちに残していくことが千田清掃の願いです。

会社概要

社名	有限会社 千田清掃
代表者	代表取締役 千田信良
所在地	古川狐塚西田77番地
設立	昭和27年
社員数	45人
事業内容	バイオディーゼル事業、Benry事業(トータルライフサービス業)、し尿・浄化槽汚泥清掃業 ほか

地域活性化への思い

千田清掃では、地域貢献活動の一助として「おおさき鳴子温泉 菜の花フェスティバル」の開催を社員一丸で支援しています。東日本大震災からの復興を応援しようと、鳴子温泉地域への避難者を招待したのをきっかけに始まり、毎年多くの来場者でにぎわいます。



▲ 紺野 恵美さん

実行委員会事務局の紺野さんは「地元の資源を生かして、鳴子温泉地域の皆さんとともに開催でき感謝しています。もっと川渡地区を知ってほしいですね」と話してくれました。

伝統の 息吹



第二回

いわてやまおおくらりゅうようきよく 岩出山大蔵流謡曲

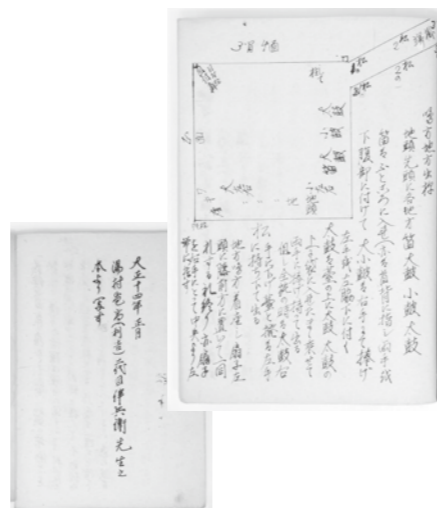
江戸時代、岩出山伊達家は、武士の教養とされた「能」を保護し、祝儀の際、城内の能舞台や有備館などで催していました。当時から、岩出山地域には「大蔵流謡曲」が伝わり、現在も親しまれています。

起源をさかのぼると、文政5年(1822年)、岩出山通丁の湯村利吉という人物が京都で大蔵流を学び、岩出山伊達家に伝え、厚く待遇されたことにより、利吉の没後、子の湯村半兵衛が城中や地域に広めたものが、現在まで大切に受け継がれてきました。

明治時代に入り、それまで武士だけのたしなみであった能や謡曲は、湯村半兵衛や旧武士によって一般庶民に伝えられ、特に、岩出山通丁地区周辺で暮らしに根付いていきました。

謡曲は、結婚式、正月の儀礼、家の建前など、人生の節目で催されることが多く、大切な儀式にふさわしい、あこがれの対象だった様子が記録に残っています。

能の詞(セリフ)である謡曲は、能を演劇に例えると脚本や台本に相当し、物語の語りやセリフで構成されています。能の中の謡曲は、演奏時間が非常に長く、謡曲の一節を切り取った「小謡」がより親しまれてきました。



▲大正14年正月、道場で湯村半兵衛から学び、教則本である「謡曲本」を書き写した記録が残っています。

昭和初期には、謡曲が暮らしの祝い場や儀礼で必要不可欠になり、多くの人に普及しました。当時は「道場」という講習会を一週間続けて開き、最後の日の「道場開き」で謡曲を披露して「二人前」とされていたようです。また、この頃には、岩出山通丁地区の熱心な謡曲家のもと、農閑期に旧加美群・旧栗原郡・古川東大崎地区にも泊りがけで足を運び、普及に努めていました。

道場の中でも「高砂」「養老」「難波」という演目は、人気を博したようで、現代でも「謡三番」や「式三番」として謡われています。

岩出山伊達家から守りつないだ謡曲は、昭和21年、それまでの謡曲研究会から名称を「岩出山謡曲保存会」と改め、現在にいたります。

約200年の時を越えて、旧有備館および庭園や地域の老人会、結婚式などで披露され、今日も、人生の節目にふさわしい歌声が響きます。